

壁（依倚）の意味と理解

壁という言葉の意味は依倚という言葉に置き換えることができる。例えば、今左手前で蹄跡行進をしているとする。その時柵（ラチ）を壁ということができ、その柵がひとつの依倚であって、馬の外側、すなわち右側は柵に沿って蹄跡行進をするので行進しやすい。つまり、騎手の右側の扶助が柵のない線上、例えば中央線上を行進するよりも楽だという事である。なぜなら、馬の外側は柵と言う壁のよって依倚を通常より得やすく、また多少依倚を得られているということである。

そのほか、斜横歩の時、若馬または若い騎手にその運動を理解させるための方法として、初め馬の頭を壁に向けて斜横歩を行うことができる。そのときの柵がひとつの壁であり、依倚である。すなわち、柵という壁を利用して馬がそれ以上前へ進むことができないようにする。それだけで騎手は手綱を引いたり、馬の口を必要以上に強く抑えないで済む。いわゆるその壁は、騎手の手綱だけによる依倚ではなく、壁という依倚によって手綱の依倚を補助することができる。

最初のうち、馬が騎手の扶助を理解するまでは、多かれ少なかれ騎手の手綱に対して依倚を得られづらく（もちろん手綱に対する依倚が望ましいが）、柵なり壁を上手に利用する方が効果的である。すなわち、できるだけ馬の口を引かない、または必要以上に馬の口を強くないという理由からである。そのような理由で我々はすべての壁を依倚として利用するわけである。

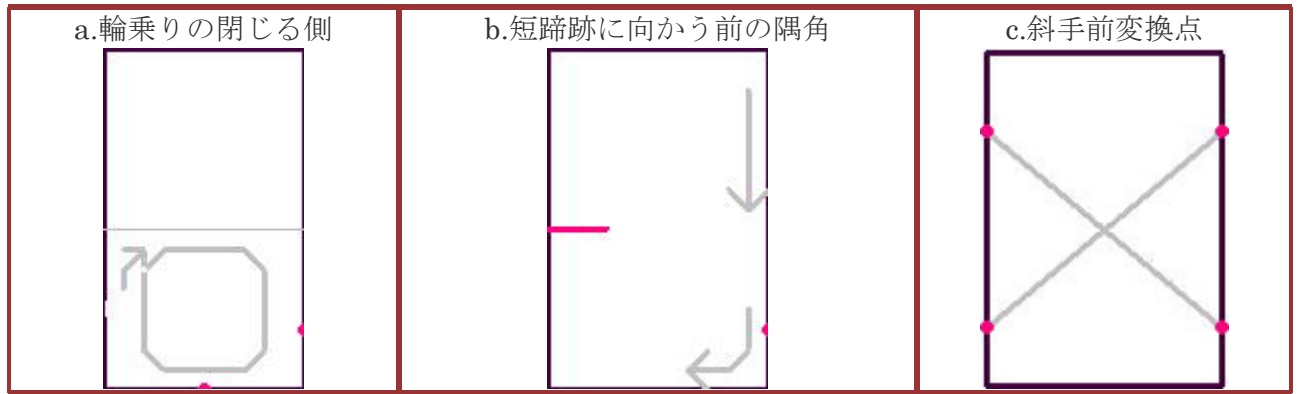
そのほか、障害物を設置するときも馬場のラチを上手に利用する方が効果的である。たとえば、図□のようにラチに対して障害物を設置する場合、壁に対して約45度に設置することによって、飛越した後の減却が壁を利用することによってしやすくなる。すなわち、この壁は一種の依倚となり得る。また、隅角を上手に利用するも同じ理由である。

回転動作や減却扶助操作、そして障害物の設置場所などはすべて壁を利用して行うほうが効果的である。このような考え方を若馬や若い騎手に対して適用することは特に効果的であり、確実である。このような練習を通じて最終的には忠実で安定した、また秩序正しい騎乗および調教が人馬共に可能になる。

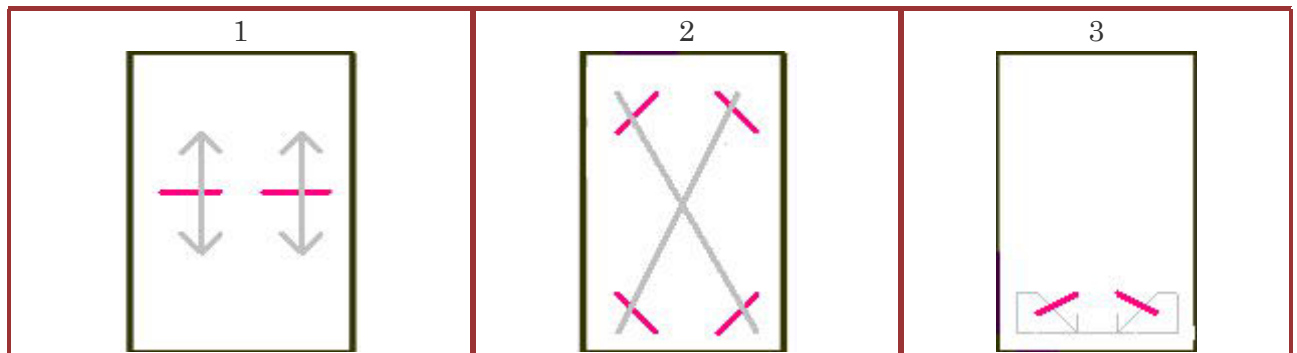
壁（依倚）の利用の仕方

1. 駈歩発進する場所
2. 障害設置場所

駆歩発進する場所



障害設置場所



DSTコラムへのご質問・ご感想をお待ちしております。